

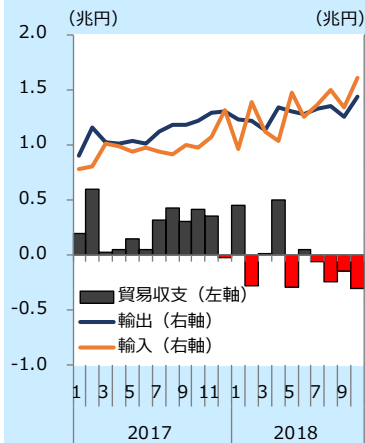
日本：貿易統計（2018年10月）

—自然災害からの反動増を背景に、輸出は2ヶ月ぶりに増加—

MRI Daily Economic Points

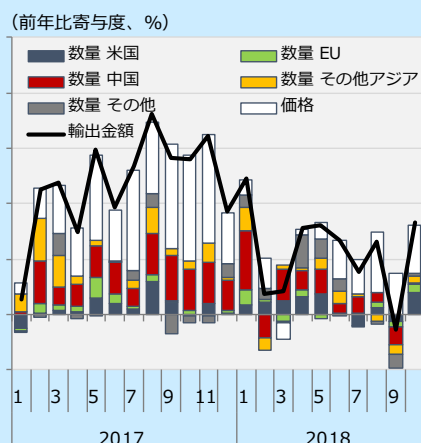
November 20, 2018

貿易収支



出所：財務省「貿易統計」

輸出額の寄与度分解



評価ポイント

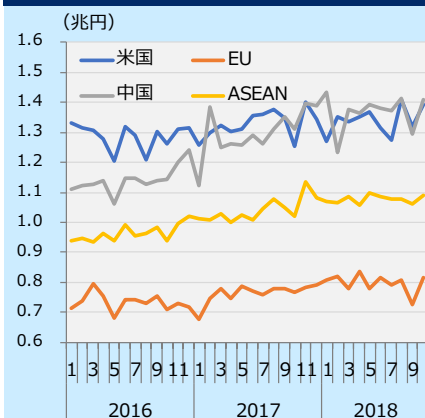
今回の結果

- 18年10月の貿易収支（季節調整値）は、▲3027億円と、4ヶ月連続で赤字となった。輸出は前年比+8.2%と、2ヶ月ぶりに増加。輸入も同+19.9%と、高めの伸びとなった。
- 10月の輸出金額の内訳をみると、輸出価格は、18年3月以降の円安などを背景に、前年比+4.3%と7ヶ月連続で上昇。輸出数量は、同+3.8%と2ヶ月ぶりに増加した。輸出数量への寄与度は、米国向けが大きかった。
- 実質輸出は、前月比+6.6%の増加となった（三菱総合研究所の計算による実質・季節調整値）。関西国際空港の一時閉鎖など自然災害の影響により減少した9月からの反動増が、全体を押し上げたとみられるが、9月の減少分（同▲7.3%）を取り戻すには至らなかった。
- 実質輸出を国別でみると、10月は、米国向け（同+5.4%）、中国向け（同+8.8%）、ASEAN向け（同+2.4%）、EU向け（同+12.7%）など、幅広い国・地域で増加した。米国向けは、輸送用機器は弱い動きだが、減税による内需拡大もあり、全体としては緩やかに拡大している。中国向けは、7月の自動車関税引下げにより輸送用機器は増加しているが、米中貿易摩擦の影響を受けて電気機械などが弱い動きとなり、横ばい圏内で推移している。

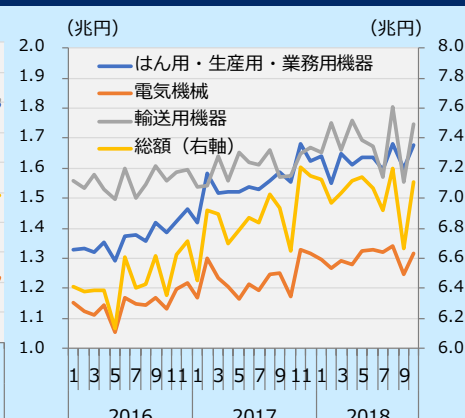
基調判断と今後の流れ

- 輸出は、10月は高い伸びとなったが、基調としては、海外経済の成長減速などを背景に、回復に一服感がみられる。
- 先行きは、米中貿易摩擦の影響を受ける中国向けや、減税による内需押し上げ効果が剥落する米国向けを中心に、19年度にかけて輸出の伸びは鈍化するだろう。
- 下振れリスク要因として、①米中貿易摩擦の激化による米中経済の下振れや、②19年1月に開始される見通しの日米物品貿易協定（TAG）の交渉の行方、は注意が必要である。

実質輸出：国別



実質輸出：品目別



注：三菱総合研究所の計算による実質・季節調整値。2015年基準。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成